

## レジュメ・都市のコミュニティと文化、ネットワーク

### 1. 講演の目的

→経済的活力、新しい創造を導くような都市のあり方を考える。そのような課題において都市のコミュニティをどう見たらいいのかについて検討を行う。

→そのとき、文化とネットワークという2つの視点を導入する。

#### ○都市のコミュニティをどう見るか

→多様なコミュニティの集まりから構成された複合的なもの

・自治会などを典型とする地縁的な結合だけではなく、会社などの職場におけるコミュニティやテーマ・コミュニティのような任意参加タイプ等、様々なコミュニティから構成されていると見ることができる。

・このような多様なコミュニティが集まって構成されている都市の地域コミュニティがどのようにしたら活力や創造的な力を生み出すことができるかについて考える

#### ○文化という視点

→文化経済時代ということで文化が一つの重要な役割

・コミュニティ間のネットワークにおいても文化創造が重要なテーマになる

#### ○ネットワークという視点

・都市で活躍する企業、NPO、自治体、各種機関等のアクターが結びついて、そのネットワークの中で創造的な力を波及させ、その力を循環させることで都市のコミュニティの経済的活力や創造性を高めることが重要

### 2. 経済学的関心におけるコミュニティ、ネットワークへの注目

#### ○経済上のパフォーマンスにおけるローカルの持つ役割への注目

→コミュニティやネットワークへの関心

・地域の持つアクター間のネットワークの重要性・・・シリコンバレー

・創造性やイノベーションを生み出す地域内のネットワーク

→変化の激しい市場への柔軟な対応

→産業クラスター

・ローカルなコミュニティにおける知識の共有と創造

→新たな知識の学習；暗黙知の創造、共有と伝播

#### ○コミュニティかネットワークか

・明確に区分せずに使われている

\*コミュニティ：共同性や連帯感情を重視。

\*ネットワーク：人や組織の間のつながりを重視。

→いずれにしても、同じように人の集まり、その中での関係性を見ているが、重要なのは、コミュニケーションと共同性

### 3. 都市の持つ多様性への注目とネットワーク

#### ○ジェーン・ジェイコブスの主張

- ・都市の持つ多様性の重要性をいち早く主張
- ・現代の都市計画が都市の中に清潔や安全性、快適さ等の機能を純化、選別して、機械的に追求することで、都市のコミュニティが育んできた複雑で濃密な社会的関係や都市が本来持つべき多様性などの特質を損なってきた、と批判
- ・ジェイコブスは、多様性、混合性、密集性で表現されるようなアーバンティを体現している都市空間こそ新たな創造を生み出し、イノベーションを生み出す温床であることを主張

#### ○多様性をどう捉えるか

- ・多様な人々（アクター）がそれぞれ多様に結びつき、重層的・複合的にコミュニティを形成している状況
- ・このようなコミュニティ群が相互に結び付きネットワークを形成していることが重要
  - 異なる背景を持ち、異質な考え方や多種多様な情報を持っている多様な人たちが交流し、頻繁に相互作用する中でお互いに影響し合っ、新しいアイデアやイノベーション、事業が生まれる
  - このようなネットワークは新しいものを生み出すだけでなく、相互に支え合うことによって育む場ともなる
  - 多様な要素があるだけでなく、それらの間に有機的な結合が存在し、そこからアイデアやイノベーション等を生み出す創造的なメカニズムが形成されていることが重要

### 4. 創造都市論とコミュニティ、ネットワーク

#### ○創造都市研究とは何か

- ・ヨーロッパでは、90年代以降創造都市と称される一連の研究が現れ、提案・主張
- ・経済的手段としての性格が強かった文化による都市再生政策に対する批判的検討から、都市にはらむ様々な問題を解決するために都市の持つ創造性を引き出すことが重要であると主張
- ・創造都市論は、ヨーロッパだけではなく世界中に影響を与え、今では都市再生・まちづくりの一つの潮流を形成

#### ○創造都市

- ・脱工業化や知識社会化・文化経済化というような経済社会の構造的な変動に伴って起こる都市を取り巻く環境の変化やそこから生じる問題等に対して人々のもつ創造的な力を引き出すことによって対応し、地域社会の活性化を図ろうとするものである。

→自己を取り巻く環境の変化に自律的に対応するための一つのガバナンスのあり方を示すものであり、都市の持続的な自立戦略とすることができる。

→そして、その自己調整の方法、ガバナンスの核となるものが創造性なのである。創造都市論では、都市が環境の変化に対応するために、そして都市に生起する様々な問題を解決するために、都市の持つ創造性が果たす可能性に着眼する。

→都市を構成する市民、企業、自治体、NPO などの様々なアクターやネットワークの社会的な潜在力を引き出し、創造的な力として顕在化させ、活用するのである。

→そのとき、文化や芸術の持つ創造的パワーの役割に注目する。

→例えば、この創造的パワーによって都市のアクターの創造的活力を引出し、それによって社会的な相互作用、地域のアイデンティティ、コミュニケーションを活性化させ、地域内の教育や健康、福祉等の様々な公的分野と結びつけることによって、地域コミュニティの問題解決や活性化を図ろうとする。

→産業の核としての創造産業（文化産業）

#### ○チャールズ・ランドリー（Charles Landry）の創造都市論

- ・英国の文化計画コンサル；*Creative City*（『創造的都市』）の著者
- ・文化や芸術が持つ創造的なパワーを活かして社会の潜在力を引き出そうとするヨーロッパの都市の試みに注目し、その経験の総括を通じて創造都市を理論化
  - \*都市間競争が激しくなり、また、中央政府からの支援もあてにできなくなっていく中で、浮動的な資本の力に翻弄されることなく、自己を取り巻く環境の変化を読み取りながら絶え間なく自律的に対応していく能力が必要とされてきている状況下において、地域の人々の創造性を引き出すことで対応していくことを主張
- ・都市の創造的な対応能力を形成するためには
  - \*自由で創造的な文化活動の展開
  - \*文化インフラストラクチャ（文化資源、文化環境、教育研究システム、情報コミュニケーション・システム、文化芸術支援制度等）の充実
- ・そのような文化活動と文化インフラストラクチャに支えられたアクター間のネットワークの中で創造的な力が生まれ、それがネットワークを通じて色々なアクターや経済、文化、教育等のあらゆる分野において連鎖反応を起こすことで既存のシステムを変革する
  - ランドリーの主張からは文化の持つ創造性の力とその力を都市内で大きく発展させるための都市内のネットワークの重要性を見ることができる

#### ○リチャード・フロリダ（Richard Florida）の創造的階級論

- ・アメリカ、経済地理学者
- ・*The Rise of the Creative Class, 2002*（＝『クリエイティブ資本論』）
  - \*現代経済の新しい担い手としての『創造階級』の登場と存在感に注目し、そのエートスと仕事及びライフスタイル、そして彼らが選択するコミュニティの特徴を

分析し、創造階級が好んで居住する都市や地域こそ経済的パフォーマンスが優れていることをわかりやすい具体的な指標によって示した

- \*成長著しいハイテク産業は創造的人材を求めて立地することをつきとめ、地域再生の鍵は工場の誘致ではなく、いかにして創造的な人材を引き付けることができるかにかかっている、と主張

- 創造的コミュニティ

- \*現在のような創造的産業が経済を主導する時代において、都市の成長のためには、創造的階級を惹きつける魅力ある環境を備えたコミュニティが重要
- \*そのような魅力的環境の構成要素としては、一般的には優れた都市景観などの物理的空間や美術館などの文化施設により構成される文化環境が挙げられるが、フロリダはそれ以上にストリート・レベルのアメニティの重要性を強調し、活気のあるストリート・ライフや魅力的なナイト・ライフを楽しむことを可能にする刺激的な消費的環境の重要性を強調
- \*社会的環境としては、創造的階級の持つエートス（心性、精神態度）がその環境において充たされるかという観点から、多様性、開放性、そしてとりわけ異質な要素の参入を受け入れる寛容性という要素を重視、それらの要素を備えたコミュニティとして創造的コミュニティを提案
  - フロリダはジェイコブスの主張を受けて創造的なコミュニティにおける多様性の重要性を改めて強調しそれを支える条件を提案・・・なお、ここでいうコミュニティは比較的大きな単位

- 創造都市の条件と戦略

- 創造都市の条件

- ①異質な要素の加入が許容され、都市の構成要素であるアクターに多様性があること
- ②アクター間の結びつきを支える創造性のネットワークがあり、さらには、ネットワークに循環構造が形成されていること
- ③構成要素であるアクターの創造的な潜在能力を高める機会があること
- ④アクターの創造的な活動やアクター間における創造性のネットワークや循環構造を支えるような、生活の質や社会的雰囲気等の社会的環境、文化的インフラストラクチャを含んだ創造の場及び社会的基盤が形成されていること
  - ここでいいたいのは、都市が創造的な活力を持つためには、多様な人々、コミュニティが存在し、それらの間に血の通ったネットワークが形成されていることが重要であるということ

- 創造都市戦略とは総合政策であること——行政の推進体制

- \*創造都市では、その構成要素間でインタラクティブな関係が形成され、創造的な循環メカニズムが働いていることが必要であるため、創造都市戦略とは本質的に総合政策でなければならない

\*このような、〈経済、産業、都市、文化、アートの相互循環の仕組み〉が実現しない都市があるとすれば、その最大の障害は、縦割り社会・縦割り組織ということになる

→日本では横浜市が創造都市戦略を採用し、総合政策を遂行するための市庁横断的な推進体制を敷き、さらには、市内の組織横断的な体制も創り挙げようとしている

## 5. 文化の創造と多様なコミュニティ及びネットワーク

→では、コミュニティ間のどのような関係が文化の創造を支えるのか

○文化創造企業と地域内のコミュニティ：カナダ・モントリオール

- ・モントリオールには、ゲーム産業の Ubisoft、エンターテインメントの Le Cirque de Soleil 等の世界的に有名な文化創造産業あるいは知識産業が立地
- ・これらの企業は大規模な研究開発部門を持たず、その文化／知識創造的能力は、都市内の起業の垣根を越えた無数のコミュニティに依存している
- ・クリエイティブな人材、知的能力の高い人材は、これらの文化創造／知識創造企業の専門家コミュニティに属しているとともに多様な趣味的なコミュニティにも属している

→プロフェッショナル・コミュニティ

→実践的コミュニティ：あるテーマに関する関心や問題、熱意などを共有し、その分野の知識や技能を、持続的な相互交流を通じて深めていく集団

→そのようなコミュニティの中で文化創造能力が育まれる

- ・文化創造／知識創造企業は、プロジェクトを管理運営する中でこれらのコミュニティから人材を調達し、コミュニティの中で育まれた文化創造能力を活用する

→プロジェクト・ネットワーク：期間と任務が限定された、多様なアクターからなるネットワーク

→都市内の主要な企業を通じて不断にプロジェクトが生まれ、都市内のコミュニティの中からプロジェクト・ネットワークを絶えず編成していくことで、都市内のコミュニティ間にネットワークを形成するとともに、それらの文化創造能力に刺激を与えている

→何らかの明確な目的やそれに基づく実践の共有が電気となってネットワークを活性化する

○都市の文化産業群と文化コミュニティのネットワーク：英国

- ・英国のリヴァプールやマンチェスターでは、ポピュラー音楽においてシーンといわれるオーディエンスを中心とした文化コミュニティがミュージシャンや音楽事業者、音楽ジャーナリスト、演奏空間等とネットワークを形成し、ポピュラー音楽活動を支えている。

- ・個々のシーンの間にはゆるいネットワーク関係が形成されるとともに、ダンスやファッションなどの隣接するポピュラー文化の他の分野と密接に結びつくことで都市全体に及ぶ文化コミュニティ間のネットワークが形成され、都市内の文化活動を支えている

#### ○ネットワーク組織としての都市

- ・ネットワーク組織とは：複数の個人、集団、組織が、特定の共通目的を果たすために、社会ネットワークを媒介にしながら、組織の内部あるいは外部にある境界を超えて水平的にかつ柔軟に結合しており、また、境界があいまいであり（ボーダレス）、分権的・自律的に意思決定できる組織形態
- ・特徴
  - \*環境の変化への柔軟な対応と自己革新能力の高さ
  - \*創造性、革新性が高い：アイデアの創造やイノベーションに適している
- ・モントリオールにおける文化創造企業と各種の文化的コミュニティのネットワークやマンチェスターの文化産業を取り巻く文化コミュニティのネットワークが作り出している状況は、都市全体が一つのネットワーク組織を形成している
  - これからの都市の様々なコミュニティの関係のあり方として重要ではないか

## 6. 文化政策（文化プロジェクト）の効果

→では、どうやってコミュニティ間で有意な関係のネットワークが形成されるのか。文化政策／文化プロジェクトを例にとって検討したい

#### ○黒壁によるコミュニティ・ビジネスの展開と秀吉博：滋賀県・長浜市

- ・概要：衰退した中心市街地の再生を目的として 1989 年買取った保存建築物を利用して、ガラス事業を中心とする店舗展開によって中心市街地を活性化。さらに、文化イベントを通じて市内の事業者や NPO などのネットワークが交差・複合化。
- ・黒壁は 89 年に 3 店舗開店、91 年には、さらに 4 店舗開店。その後、黒壁の考え方や価値に賛同する市街の事業者も参入し、現在では黒壁グループとして 34 店舗に及ぶ。黒壁の活動は、ガラスの製作・展示・販売という事業だけではなく、買い取った建物の店舗としての利用することを通じて、街並みの保存・整備を行っている。
  - \*黒壁の活動により来街者は徐々に増え、89 年に約 10 万人であったものが、2001 年には 200 万人を超えている。それに応じて黒壁の収益も順調に拡大。
  - \*黒壁は自分の事業を展開するだけでなく、長浜のまちづくり推進のネットワークの核としても活動。これに影響されて多くの市民活動組織が生まれ、黒壁を中心とするまちづくりのネットワークが形成。
  - \*他方で、メディア等の影響もあり、中心市街地の商店の中には黒壁の成功に影響され積極的な経営に転ずるものが出てきたこともあって、中心市街地の空き家・空き店舗は減少

- ・秀吉博とネットワークの複合化、新しい事業の創成
  - \*このような状況において、1996年、市を挙げて当時の大河ドラマ「太閤秀吉」にあやかった「北近江秀吉博覧会」が開催。秀吉博は、長浜のこれまでの歴史や伝統、まちづくりの方向性を改めて確認し、新たな道を開こうとするものであった
  - \*1000人を超えるボランティアが活動する等多くの市民の参加を導いた
  - \*黒壁グループ、青年会議所メンバー、商店街の人々、市役所、数々の市民活動団体、高齢者等、それまではあまり相互に接触することがなかった様々な人たちが参加し、協働するという経験が得られた
    - このイベントが契機となって市内の様々なネットワークが交差し、複合化されるようになっていった
  - \*このイベントを通じて形成されたネットワークの中から、プラチナプラザ、出島まちづくり塾、まちづくり役場などのコミュニティ・ビジネスや非営利組織が生まれ、いずれもその後長浜のまちづくりの重要なアクターとして活動している

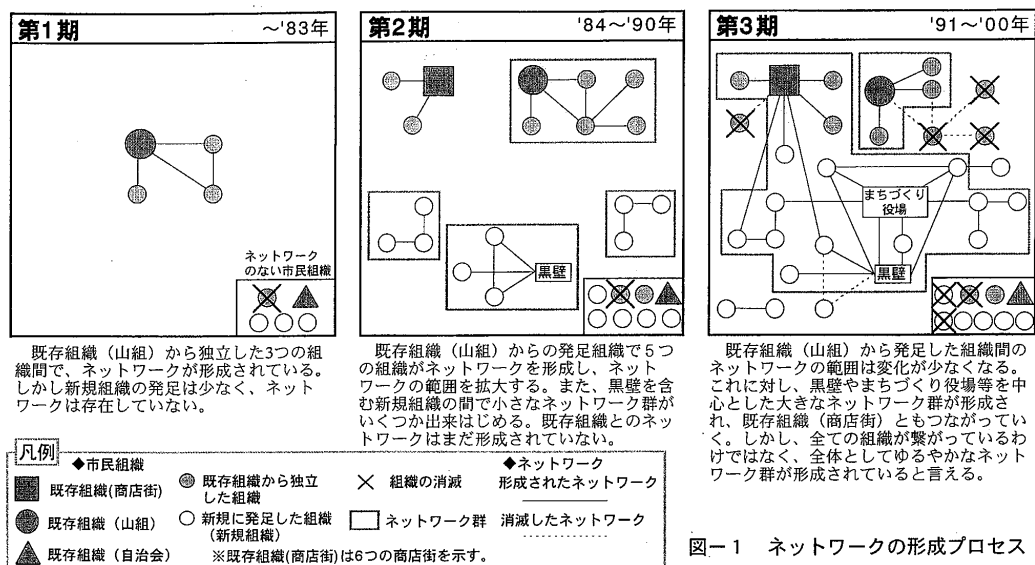


図-1 ネットワークの形成プロセス

- ・事例から引き出せること
  - \*非営利的な部分に支えられたまちづくり活動が地域を活性化させることによって事業性も確保され、それがまちづくりをさらに展開させるという構図を見ることができる。一事業の利益というよりも長浜の地域の魅力を生み出すことで事業そのものの利益にもつながっている→コミュニティ・ビジネスとしての成功
  - \*当初は黒壁、後にはまちづくり役場という非営利的部分を持った活動組織がまちづくり活動の中核となり、ネットワークの交差・複合化の核にもなっている
  - \*長浜をテーマにした市を挙げたイベントである秀吉博の掲げる共通の目的・理念が、市民の長浜に対する思いを引き出し、市民の参加や協働を導き、参加した活動間のネットワーク（複合化されたネットワーク）を形成した

\*このようなネットワークがプラチナプラザなどの別のコミュニティ・ビジネスを生み出し、支えている

#### ○都市のイメージ戦略とヨーロッパ文化首都：英国・グラスゴー

- ・エディンバラと並ぶスコットランドの中心都市。戦後経済は大きく衰退。
- ・経済的に衰退した都市を再生させるため、都市のイメージ再構築を狙ってイメージ戦略を打ち出し、その一つの方策としてヨーロッパ文化首都という大掛かりな文化イベントを開催
  - 基本的にはネガティブなイメージの工業都市から文化都市へという対外的イメージの再構築を図り、それによってツーリストや域外からの投資を引き付けることを狙った
- ・しかし、文化都市という新しい地域のイメージに対してグラスゴーの地域社会内部で論争を巻き起こし、これによってかえって地域アイデンティティが活性化
  - ヨーロッパ文化首都という都市全体を挙げての大がかりなイベントへの様々な人たちの参加と取り組みの経験、その後の文化都市というイメージに対する論争が地域内の多くの人たち、コミュニティを結びつける働きをした。
  - 当初は、文化都市というポジティブな変化を積極的に受け入れようとする人たちは、ビジネス界、行政関係者、芸術家や文化事業者などに限られていたが、このようなネットワークを通じて他のコミュニティにも影響していった
  - イメージ戦略と文化首都は、このような過程を通じて、グラスゴー市の文化（志向性、積極性、新しいものへの取り組み姿勢・考え方、アントレプレナーシップ等）に影響を与えることを通じて都市再生に貢献した
  - その点で、ランドリーのいうネットワークを通じたアクター間の連鎖反応によってシステムの変革をもたらすという議論に近い

#### 7. 熊本市への展望

- 多様性が小さければ他都市とのネットワークが重要
- しかし、行政が音頭取ってやってもダメ。民間で・・・コミュニティ・ビジネスなど
- ネットワーク組織的な都市へ